

2009年3月期 第3四半期 決算概要

2009年1月29日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 中島 俊雄
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2009年3月期 第3四半期の決算概要についてご説明させていただきます。

本日発表の業績修正内容

NEC

- 急速な事業環境の悪化、円高進行により、2009年3月期の業績予想を下方修正

	今年度予想 (2009/1/29)	前回予想 (2008/10/21)	修正幅
売上高	5,550億円	6,600億円	△1,050億円
半導体売上高	5,300億円	6,300億円	△1,000億円
営業損益	△550億円	10億円	△560億円
当期純損益	△650億円	△80億円	△570億円

注：本業績予想における第4四半期の前提為替レートは、1米ドル90円、1ユーロ125円としております。

NEC ELECTRONICS

2

まず最初に、本日発表させていただきました業績予想修正の内容についてご報告いたします。

昨年10月21日に修正いたしました今年度の見通しについて、売上・損益の数字を大幅に下方修正いたしました。

半導体市場は、特に昨年11月以降、顧客の売上減、生産減に加えて、部品の在庫調整が行われていることにより、製品の売上減を大幅に上回る勢いで半導体需要が減少しております。

第3四半期の業績も想定に対して大きく悪化することとなりましたが、第4四半期はこの第3四半期以上に業績が悪化することを織り込み、新たな業績予想といたしました。

売上高は5,550億円、半導体売上高は5,300億円に下方修正、営業損益は10億円の黒字予想から550億円の損失、当期純損益は80億円の損失から650億円の損失へと下方修正いたします。

日々悪化する事業環境に対応し、本日は業績改善のための施策についてご説明いたします。

I. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

- 事業環境の悪化や円高の影響を受け、半導体売上高・営業損益とも前回想定(10月21日)より大きく悪化

II. 2009年3月期 業績見通し

- 第4四半期の業績は、第3四半期よりも更に悪化することを織り込んで、通期業績の見通しを下方修正
- 第4四半期は工場稼働率が悪化するため、稼働減少に対応した生産体制を整える（第4四半期の工場稼働率は50%の見通し）

III. 来期以降の業績改善に向けた施策

- 今後2年間で800億円の固定費削減施策を実行（10年3月期に600億円削減）

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

2009年3月期の第3四半期の業績は、半導体売上・損益とも事業環境の悪化や円高の影響を受け、想定に対して大きく悪化いたしました。

次に、2009年3月期の業績見通しでございますが、第4四半期の業績は第3四半期よりも更に悪化する見込みとなっております。第4四半期は工場稼働率が50%まで悪化する見通しであり、この稼働減少に対応した生産体制を整えてまいります。

最後に、来年度以降の業績改善に向けた施策をご説明いたします。来年度および再来年度の2年間で総額800億円の固定費削減施策を実行するというのが、今回の施策の柱となっております。来年度(2010年3月期)については、固定費を今年度と比べて600億円削減いたします。

I. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2009年3月期 通期業績見通し

III. 来期以降の業績改善に向けた施策

業績サマリ

(単位: 億円)	09/3期				
	3Q, 12/31			9ヶ月累計	
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年同期比
売上高	1,273	△434	△400	4,609	△608
半導体売上高	1,227	△411	△365	4,410	△568
営業損益	△162	△192	△157	△150	△199
税前提損益	△201	△218	△198	△201	△236
当期純損益	△199	△190	△193	△218	△178
フリーキャッシュフロー	33	+44	+12	△12	△105
D/Eレシオ	0.59倍	-	-	-	-
株主資本比率	34.0%	-	-	-	-
為替レート	1US\$ =101円 1Euro=137円	対US\$ 13円高 対Euro 26円高	対US\$ 7円高 対Euro 29円高	1US\$ =104円 1Euro=154円	対US\$ 14円高 対Euro 8円高

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

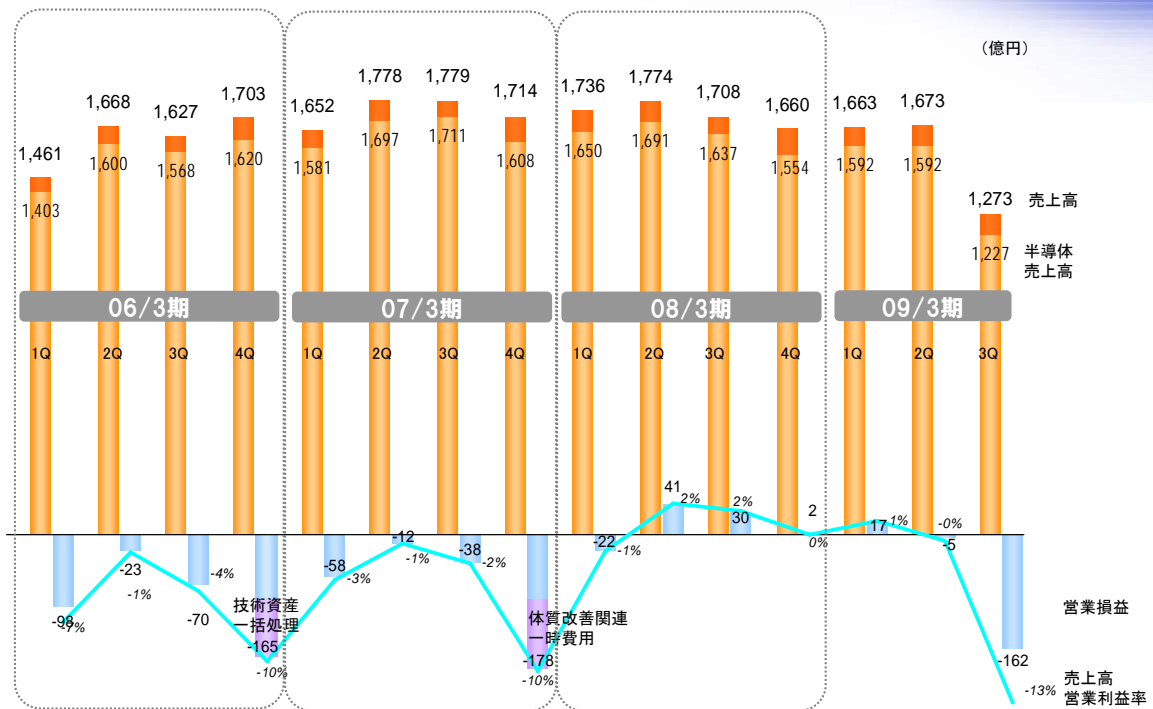
5

まず、第3四半期実績のサマリでございます。

売上高は前年同期との比較で25%減少の1,273億円となりました。当社の主力事業である半導体売上高も前年同期比で25%減少の1,227億円、また、営業損益は前年同期と比べて192億円悪化し162億円の損失となりました。

税前提損益は201億円の損失、当期純損益は199億円の損失となりました。

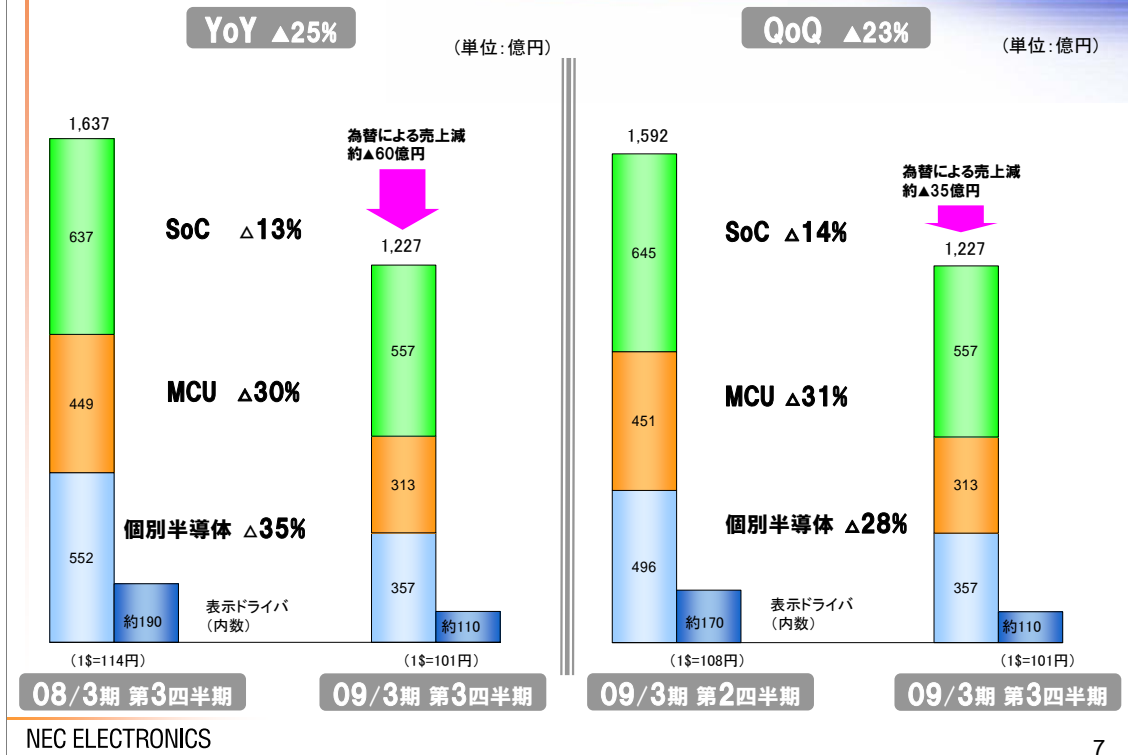
四半期別業績推移



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移でございますが、日々悪化する事業環境の影響を受け、第3四半期の売上高は、2002年11月の会社設立以後、四半期として最低の売上高に留まりました。

第3四半期(10-12月期) 半導体売上高(製品群別) NEC

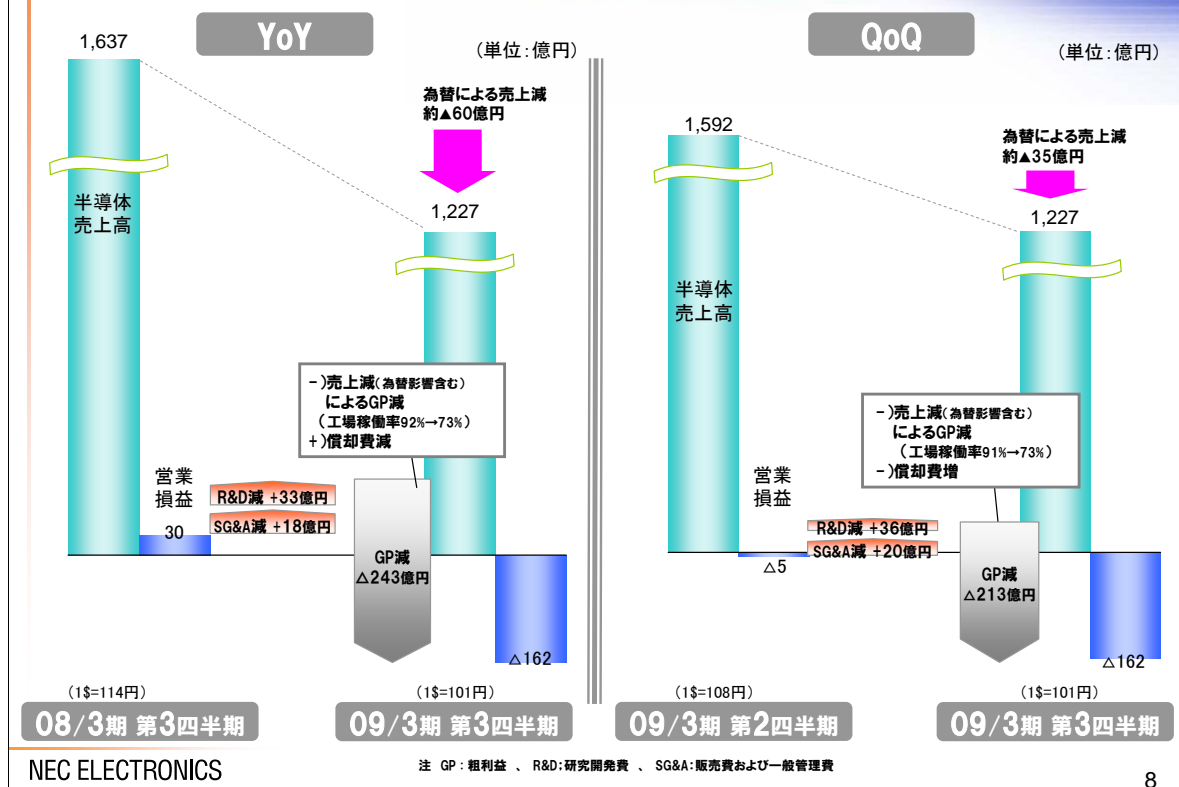


7ページは第3四半期の製品群別の半導体売上高についてお示しています。

前年第3四半期との比較、前四半期との比較ともMCUおよび個別半導体の売上の下落が顕著となっております。SoCはゲームが堅調に推移したこともあり、10%レベルの減少に留まりました。

第3四半期(10-12月期)営業損益の主な増減要因

NEC



8ページは、第3四半期の営業損益を前年同四半期および前四半期と比較したものです。

グラフでお示ししているとおり、この第3四半期の営業赤字が増大した要因は、大幅に売上高が減少したことによるものです。

バランスシート

(単位:億円)	07/12	08/9	08/12
現金および現金同等物	1,889	1,580	1,565
受取手形および売掛金	926	953	681
たな卸資産	811	820	821
有形固定資産	2,738	2,570	2,447
その他の資産	313	297	280
総資産	6,676	6,220	5,794
支払手形および買掛金	1,183	1,119	1,109
社債および借入金	1,320	1,171	1,170
その他の負債	1,535	1,629	1,494
負債	4,037	3,920	3,773
少数株主持分	51	52	52
株主資本	2,588	2,248	1,969
負債、少数株主持分および資本合計	6,676	6,220	5,794
D/Eレシオ(グロス)	0.51倍	0.52倍	0.59倍
株主資本比率	39%	36%	34%

9ページはバランスシートでございます。

12月末時点の現金および現金同等物は1,565億円、たな卸資産は821億円と9月末と比較して大きな変化はございません。

たな卸資産については、第3四半期の当初の工場稼働率の計画が86%でありましたが、11月以降の受注の急激な減少を受けて、ウエハ投入の抑制を行いました。第3四半期の工場稼働率は計画に対して10ポイント以上下回る73%となりました。

(単位：億円)	08/3期		09/3期		
	3Q	9ヶ月累計	2Q	3Q	9ヶ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	136	428	146	105	294
投資活動による キャッシュ・フロー	△147	△335	△125	△72	△306
フリー・ キャッシュ・フロー	△10	93	21	33	△12

キャッシュフローでございますが、

第3四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純損失を計上したものの、売掛金の減少や、減価償却費等の計上額が174億円であったことなどにより、105億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入による支払が111億円であったことなどにより、72億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは33億円の収入となりました。

I. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2009年3月期 通期業績見通し

III. 来期以降の業績改善に向けた施策

事業環境の更なる悪化を想定し、通期業績見通しを修正

(単位:億円)	08/3期	09/3期				
	年間	9ヶ月累計	年間			
	実績	実績	前回予想 (10月21日)	今回予想	前回との 差異	前期との 差異
売上高	6,877	4,609	6,600	5,550	△ 1,050	△ 1,327
半導体売上高	6,533	4,410	6,300	5,300	△ 1,000	△ 1,233
営業損益	51	△150	10	△550	△560	△601
税前損益	△33	△201	△40	△620	△580	△587
当期純損益	△160	△218	△80	△650	△570	△490

為替レート

1US\$=	116円	104円	105円	4Q 90円		
1Euro=	161円	154円	145円	4Q 125円		

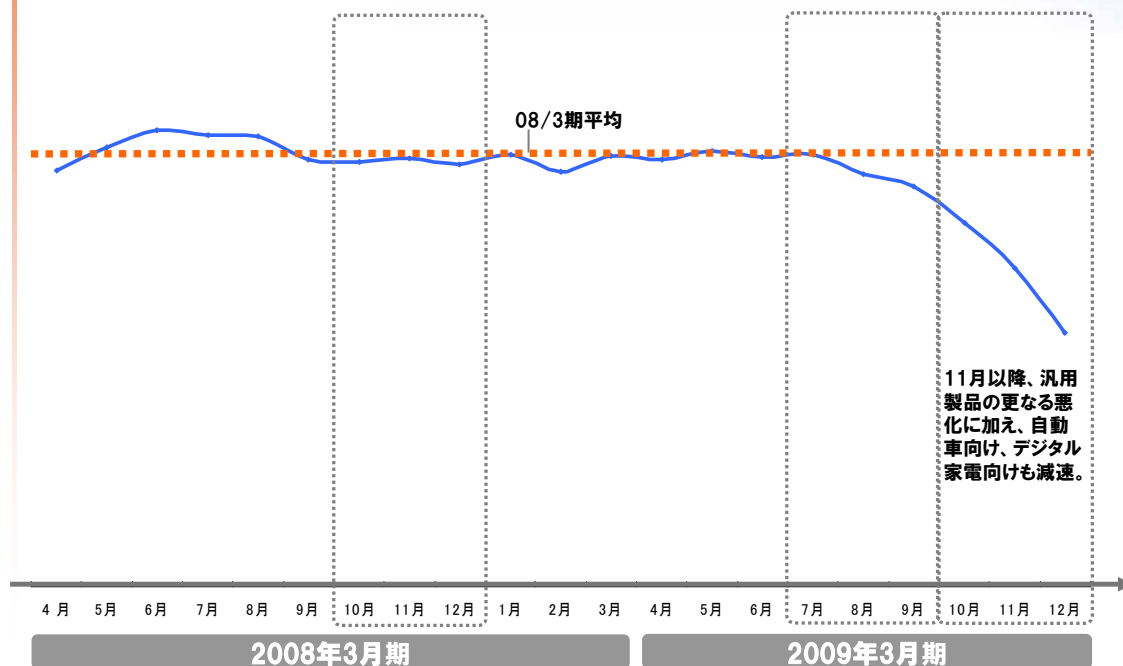
注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2009年1月29日現在

今年度の業績予想でございますが、冒頭にお示した数値に変更いたしました。なお、この業績予想は、1ドル90円、1ユーロ125円に為替の前提も変更しております。

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）



NEC ELECTRONICS

（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

13

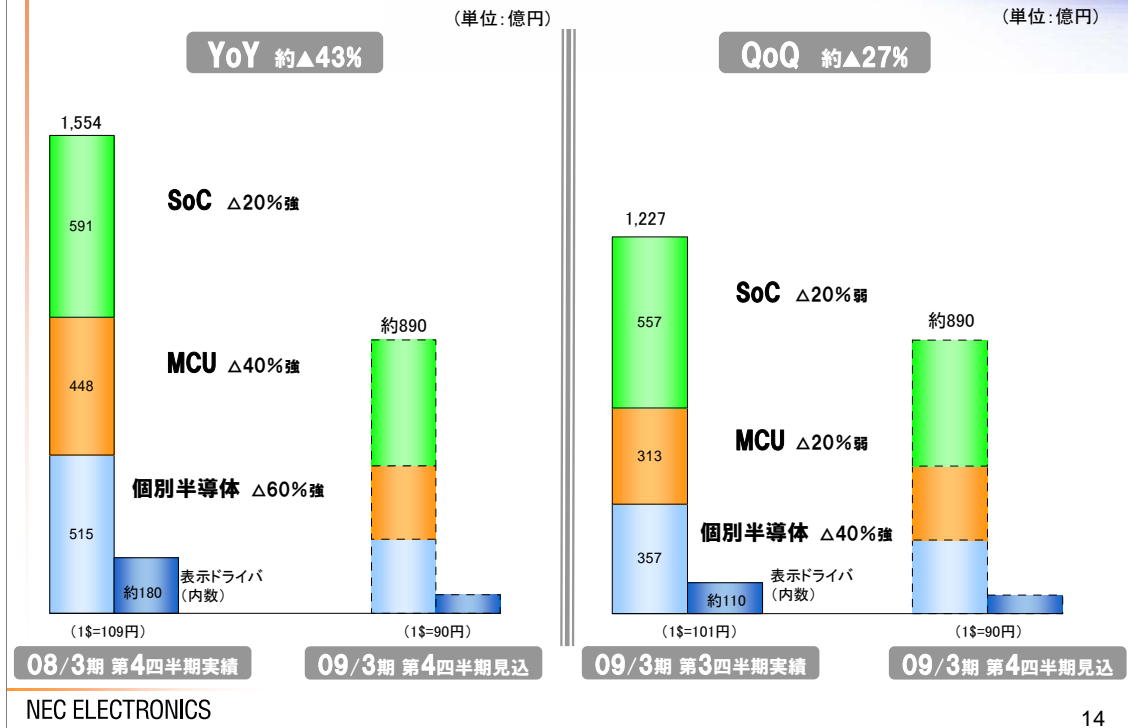
13ページは、いつもお示している当社の半導体受注高の推移を3カ月移動平均で示したものです。

第3四半期の半導体受注は、特に11月以降に汎用製品がさらに悪化したことに加えて、自動車向け、デジタル家電向けも急速に減速いたしました。昨年の10月から12月の受注高は、その前の年の10月から12月の受注と比較して40%減という状況となっております。

この厳しい状況は本年1月もまだ継続しています。

第4四半期 半導体売上高見通し

NEC

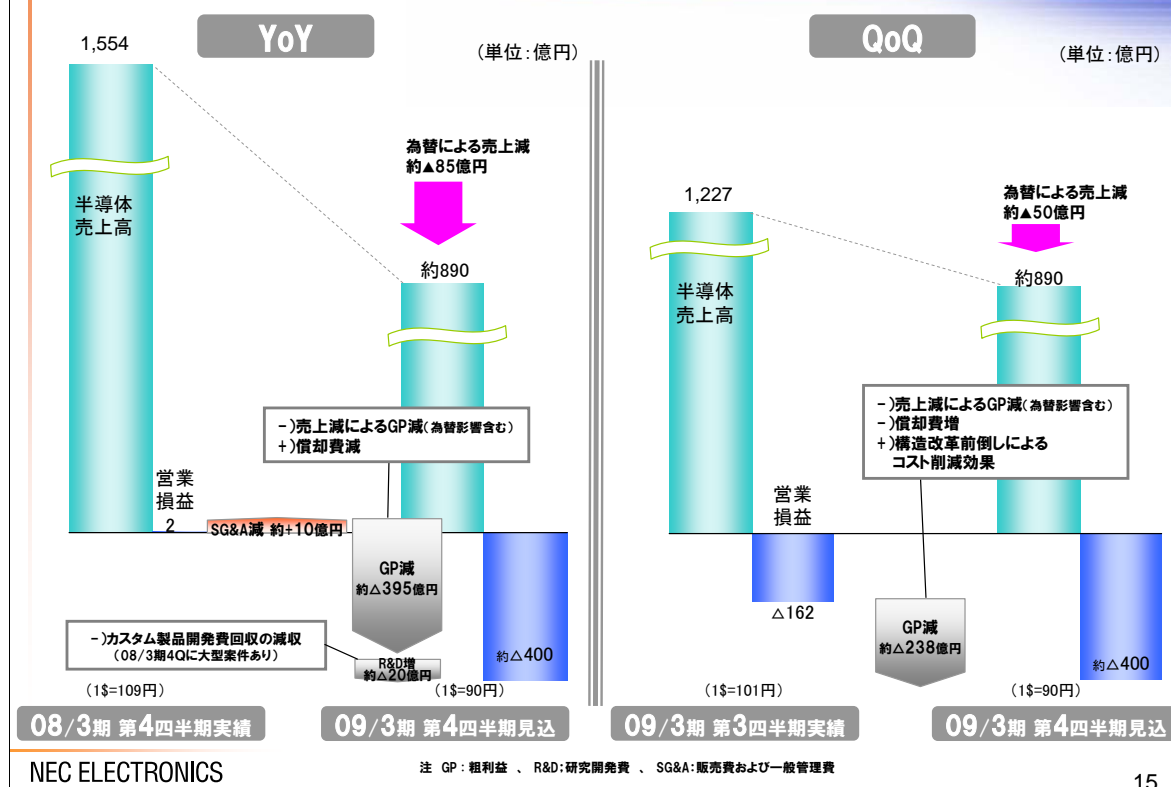


14ページは、第4四半期の製品群別の半導体売上高の見込みについてお示しています。

第4四半期の半導体売上は、約890億円と前年同期と比べて40%強の減少、第3四半期と比較しても30%弱の減少となる見込みです。

特に個別半導体の落ち込みが厳しい状況です。

第4四半期 営業損益の主な増減要因



15ページは、第4四半期の営業損益を前年同四半期および前四半期と比較したものです。

前四半期との比較(右グラフ)でお示しているとおり、売上減による粗利益減が大きく、生産ライン再編の前倒しによるコスト削減効果がこの第4四半期に期待できるものの、営業赤字は約400億円まで拡大する見通しです。

また、この第4四半期の工場稼働率は50%の見込みです。

I. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2009年3月期 通期業績見通し

III. 来期以降の業績改善に向けた施策

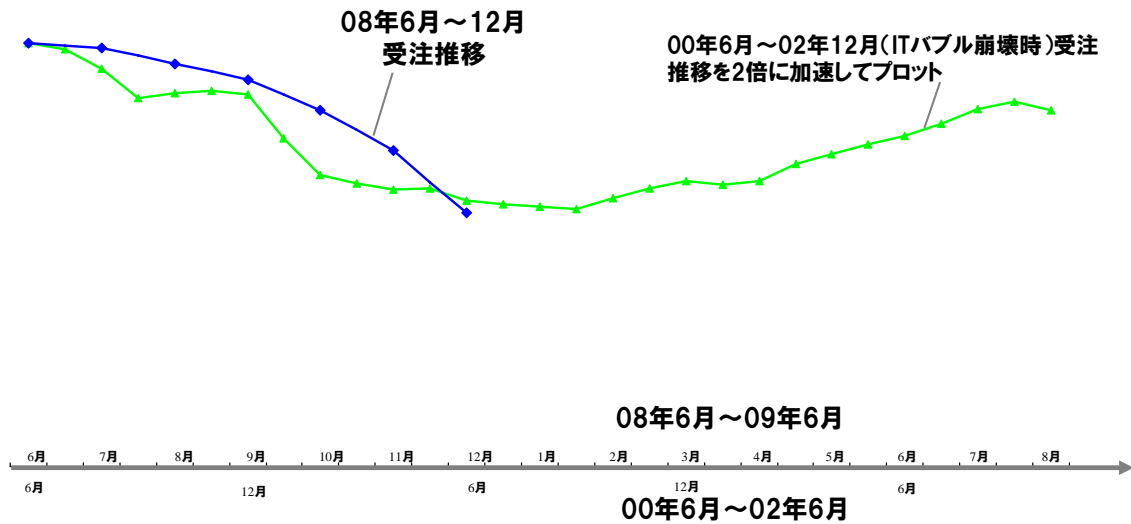
ここからは、来期以降の業績改善に向けた施策についてご説明いたします。

半導体受注のITバブル崩壊時との比較

NEC

3ヶ月平均受注高をINDEX化※

※6月受注高を基準に受注高推移をINDEX化



NEC ELECTRONICS

(為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用)

17

17ページは、現在の受注推移を2000年6月以降のITバブル崩壊時と比較して見たものです。

現在とITバブル崩壊時を比較すると、SCM(サプライ・チェーン・マネジメント)の発達などにより、現在の時間軸は当時の2倍のスピードになっていると考えております。

ITバブル時の推移から考えると、この春には受注の底をうち、その後は徐々にではありますが緩やかに回復していくというのが当社の半導体需要の見方です。

しかし、今回の急激な受注減は、今まで経験したことのないレベルのものであり、ITバブル時よりも回復が遅れるという前提で、事業運営は行っていく所存です。

新たな経営施策

NEC

■ 2年間で800億円の固定費を削減

- 10/3期 約600億円の固定費削減を実行
- 11/3期 約200億円※の固定費削減を実行
※更なる削減施策を継続検討中

11/3期損益分岐点を、約5000億円まで引き下げる

■ 構造改革を加速

- 生産体制再編を更に加速

■ 成長市場へ経営資源を集中

- 成長市場である“省エネ”、“エコロジー”に対応した“ecoプロダクト”に経営資源を集中

NEC ELECTRONICS

18

スライドの18ページにお示しているのが、今回纏めました施策です。

まずは今後2年間で総額800億円の固定費を削減します。来年度が600億円、再来年度が200億円という計画ですが、再来年度については更なる削減施策を継続して検討していきます。これにより2011年3月期の損益分岐点を約5,000億円にまで引き下げます。

次に生産体制再編をさらに加速いたします。

最後に成長市場である“省エネ”、“エコロジー”に対応した“ecoプロダクト”に経営資源を集中して、今後の売上拡大の原動力にしようと考えております。

以下、各アイテムの詳細についてご説明いたします。

10/3期 600億円固定費削減施策

NEC

- **生産関連固定費の削減** 約300億円
 - 生産ラインの集約による効果（約80億円）
山形8インチライン、相模原300ミリ試作ライン閉鎖など
 - 生産調整による人員最適化（約100億円）
勤務シフト変更、約1200人の派遣契約期限満了など
 - 設備投資抑制による効果（約120億円）
償却費・リース料減
10/3期設備投資を400億円以下に抑制
- **研究開発費の削減** 約200億円
 - ROI精査による開発品種の削減
 - 開発効率の改善、海外開発リソースの活用(インド、中国など)
- **その他全社費用の削減** 約100億円
 - 人件費の削減（取締役報酬・管理職の報酬カットなど）
 - あらゆる経費の徹底的抑制

これらの施策の一部の費用削減効果を09/3期に前倒しすべく努力中

NEC ELECTRONICS

19

まず、来年度に実行する固定費600億円削減の内訳を19ページにお示ししています。

具体的には、生産関連固定費の削減が300億円、研究開発費の削減で200億円、その他全社費用の削減で100億円という内訳です。

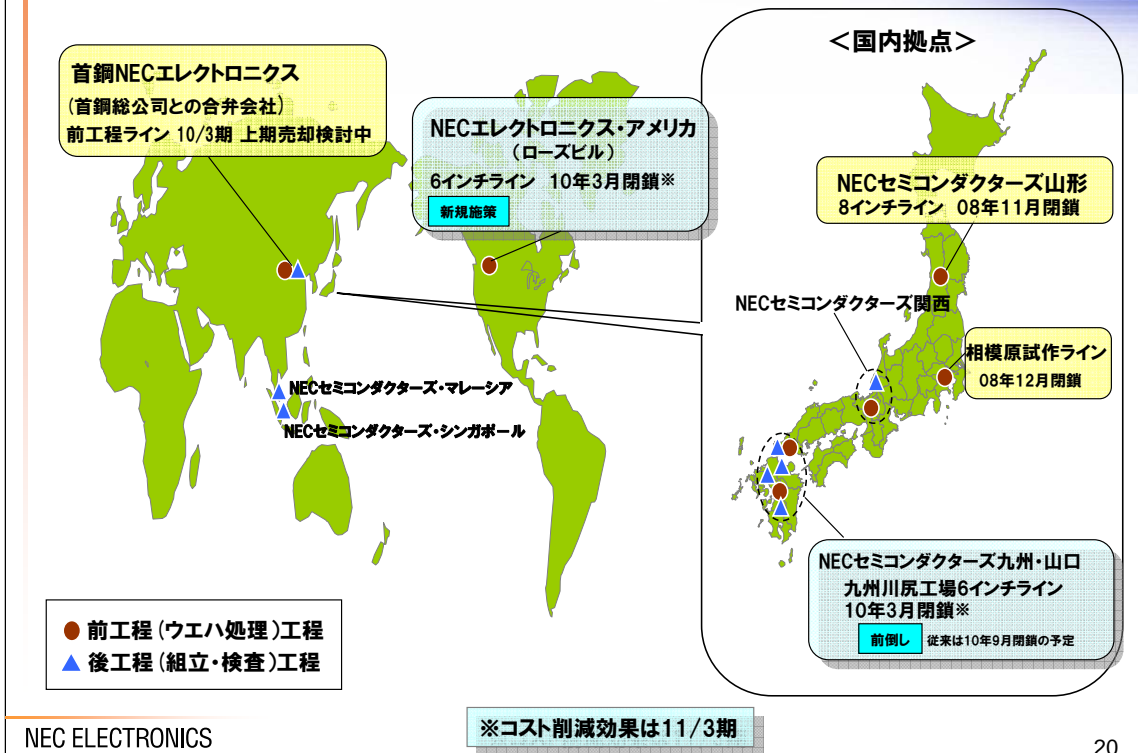
生産関連固定費については、3カ月前に説明させていただいた山形8インチライン、相模原300ミリ試作ライン閉鎖の効果などで80億円、各生産ラインにおける生産調整による人員最適化で100億円、これまでの設備投資抑制による減価償却費・リース料の削減などで120億円の予定です。なお、来年度の設備投資は400億円以下に抑制する計画です。

また、研究開発費の削減については、各製品におけるROIを精査して開発品種を削減するとともに、開発効率の改善、海外開発リソースの活用により外注費を削減することで、今年度比で200億円削減します。

また、全社費用の削減という意味では、報酬カットを含む人件費の削減やあらゆる経費の徹底的な抑制を行っていきます。

生産体制再編の加速

NEC



生産体制再編についても、さらなる加速を図ります。20ページには当社の生産拠点のマップを示しておりますが、昨年の11月に山形の8インチライン、12月に相模原試作ラインを閉鎖いたしました。この2ライン閉鎖による費用の削減効果は、来年度の固定費削減に寄与いたします。

また、生産体制再編を加速するため、今回新たに決定したことについて説明いたします。

国内では、九州の6インチラインの閉鎖時期を半年前倒しして来年の3月に閉鎖することを決定しました。

海外では、米国ローズビル工場の6インチラインを来年3月に閉鎖することを新たに決定しました。また、中国北京の首鋼NECエレクトロニクスの6インチラインについても、来年度の上期中に売却すべく検討中です。

これらが、2011年3月期の200億円の固定費削減の一部として寄与することになります。

当社ではさらなる生産体制の最適化に向けて、引き続き検討してまいります。

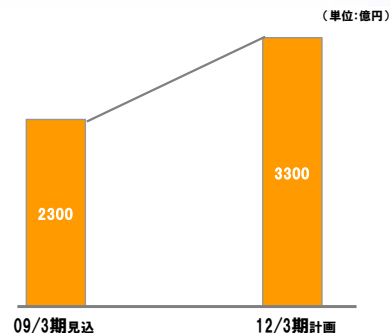
“ecoプロダクト”で売上成長を牽引

NEC

CO₂排出削減を実現する“ecoプロダクト”に経営資源を集中



自動車、デジタルコンシューマ、汎用マイコン
などの注力分野を活かす“ecoプロダクト”



主な製品群

低消費電力デバイス
エコマイコン、DRAM混載
ASICなど

省エネ製品に貢献する
デバイス

エアコン用マイコン、自動車燃
費改善マイコン、システム電源、
モータドライバなど

NEC ELECTRONICS

21

当社は、来年度の固定費削減600億円の一環として、研究開発費を200億円削減いたしますが、成長分野である“省エネ”、“エコロジー”に貢献する半導体、“エコプロダクト”に注力することにより、今後の売上成長を牽引していきたいと考えております。

“エコプロダクト”には、低消費電力のエコマイコンやDRAM混載LSI、自動車の燃費改善に貢献するマイコンや電源制御向けディスクリットなどが含まれます。

当社は“エコプロダクト”関連の売上高を、今後3年間で約4割増加させる計画です。

生き残りをかけた構造改革を引き続き断行

- 2011年3月期に損益分岐点を5000億円まで引き下げる
(固定費を2年間で800億円削減)
- “ecoプロダクト”で新市場を開拓し、売上成長の原動力とする

最後に本日のまとめでございます。

まずは、今後2年間で固定費を総額800億円削減することで、損益分岐点を5,000億円まで引き下げてまいります。

また、売上成長の原動力として“ecoプロダクト”に経営資源を集中していきます。当社の強みである低消費電力技術が必ずや顧客・市場から受け入れられると考えております。

今年度の業績修正は非常に大きいものであり、ステークホルダーの皆様には大変ご心配をおかけして申し訳なく思っております。日々急速に事業環境が悪化する中で、生き残りをかけた構造改革を引き続き断行していくことで、業績回復を果たしていきたいと思っております。

引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。
ありがとうございました。

NEC

NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

参考：分野別 半導体売上高

(単位:億円)

